

道は正しく

丸龜市役所 大須賀 嶽



港灣關係の學者のいふところによれば、吾々人類の交通が往來したのは、山から山へ、然かも谿谷を傳ふて歩かずは河港から始まつて、次第々々と川の流を溯つて、人文が發達したのだそうである。然し九州方面の昔の傳説に従つても又日本武尊御東征の跡について考へても、吾々の祖先が往來したのは、山から山へ、然かも谿谷を傳ふて歩かずには、山の背を傳つて甲武信の境界を通行した様である。水の上の通行と運搬が陸のそれに比して、容易であることは今日とても變りがないから、港灣學者のいふことも眞實で

あろうが相模より上總へ渡る東京灣の横断さへもが、寵妃の御身代はりによつて僅かに航海を了せられた水上の旅行の苦難は、山又山を越へての困難を忍むでも、當時の人々は陸上の行通を余儀なくせられたことであらう。殊に海岸を離れて奥地を經營せらるゝ必要のあるに於ては、水の旅行の便利を藉りるとすれば河川の舟筏を利用することが便利に相違ないが、河川は高きより低きに流るゝ丈けで、人の旅行の東西南北勝手次第など、常に一緒の方角へ通して居らない。そこで吾々の祖先は山巔に上つて、己れの赴かんとする方向を見通して置き、行く可き彼方への山の背を傳ふて低部地方へ出たのであらう。而して出来るなら可成く高く登らずに、山を越へて向ふの土地へ行く地點を見付けて、幾條かの峠道が出来、峠の茶屋と峠下の宿場が出来、宿場の旅舎には、港の茶屋が出船入船の客を送迎した様に美しい娘も居たろうし、それと絡んで面白いローマンスの生ずるのも自然の理である。又陸地の旅行者に取つての障礙物は獨り山の險難許りでない、行手を遮る者に川がある。幅

が廣くても淺ければ徒步で涉るが、水深があり淵と爲り瀧となつて流るゝ處では詮方がない、或る勇氣のある者が石を傳ふて渡ることを始める、又智慧のある者は樹木を倒して便利な渡渉點を造ると更後に後から一本を二本に、二本を三本に木を増して、遂に蔓や葛をからめて然かも多勢の力を加はつて今日の橋らしいものが出来上る。斯の如く港から川を溯つての人文の發達と共に、陸には山も川も打越へて前人の後を嗣いで幾人、幾百人、幾千人が前の人々の足跡を履むで道が出来て来る。初めは廻りクドイものが次第に便利にされて、恰度今日吾々が見る何々アルプスの山道に、何兵衛新道とか何右衛門新道とかいふものがある様に、人文發達の上に寄與する功勞者が下積になり上積になり、無數の足跡が吾々に道といふものを残した。であるから吾々はツイに道路といふ人類に多大の恩恵を與ぶる者を發明して呉れた、其人の名を知らずに居るのである。佛蘭西藝術の巨星ロダンはいふたとか「立派な藝術といふものは其作品に作者の名を刻せらるべきものでない」と、實に

道路は立派な大きな藝術であつた。

二

人の交通は時代の進むに従つて多くなる。生きて行く人類の進歩の前には前よりも後の者程立派な者を作らうとする心の動くのは當然である。僧服の袂をマクシ上げて、萬人の爲めにと鑿を揮つて一人一心の念願を成就して、耶馬谿の巖石を切拓いた傑物もあつた。何千人かの人夫を督して天下の大道を夷らかにした時代の人もあつた。渾圓球上洋の東西を問はず祖先以來の足跡を襲ふての道に満足せず、高きは低きに狹きは廣く、惡しき路面には砂土を加へ砂利を敷き、自然石より切石に、而してマカダムの鋪装も新たなるものへ幾度か修正せられて今日煉瓦、木煉瓦、コンクリート、アスファルト等々工法の名稱と種目を覺ふるさへも難い程に發達した。由來模倣は人類の一般性であると同時に、獨創の心も亦その大小は兎も角も人々に存するこである。近代科學の發達と相待つて道路構築に關して専

門家の心血は注がれ、學問に實際に前人の未だ曾て夢想だにせなかつた進歩發達を見るに至つたのは止むを得ないことである。

昔時支那人が白髮三千丈流の想像を以て歌つた長安の大道路は今日トランシットとレベルとを驅つて、技師の頭脳から、山も河も打越へて通することとなつた。露西亞の皇帝が欲するところ歐羅巴露西亞大帝國の版圖を南北に貫く一直線の道すらも通ずることが出来るのである。我國に京濱國道が出來、阪神國道が開かれたとて敢て驚異とするに足りない、現に東京と清水港間の從來汽車積であつた魚類は自動車によつて函嶺の雲を衝いて輸送せられて居るのである。やがて東海線、中國線といふ今日の鐵道線路名がある。やがて東海線、中國線といふ今日の鐵道線路名がある。自動車道路として凡て改修せらるゝの日を遠くに思はば迂愚の譏りを免れ得ぬ。斯の如しとすれば、道路が愈々専門化し技術化するは自然の順趨理の當然といはざるを得ぬ、私は左様なくしてはならぬ筈であると思ふて居る。道路なるものは自然の要求に基いて専門の技術者の測定によつて作

らるべき者であることを信じ且つ希みて居る。然るに我國に於ける道路の現状はコウイふ風にして造られて居らないのである。

三

生産より直接消費へといふ標語が社會の上に傳へられて居る。斯くすることによつて、中間のブローカーの手數料を省き、廉價に物を消費者は取得することが出來又生産者も利得するところが多いのである。此事は間違の無い事實として吾々の日用品經濟の上に證據立てられて居る。然るに吾々國民、市民が道路といふ日用品同様大切なを得るに際して、ブローカーを入れて取引しつゝありとすれば馬鹿々々しい次第であるといわねばならぬ。而して試みに郊外に出て、有力者何々氏の道路と命名せられ或は何某の門前を過ぎる道路也と稱せらるゝものを見る時、之が國民或は市民の實際の必要からかゝる道路が出來たのでなく、道路なる商品を取引の對象とする新商賣人の手によつて出

來たことを想ふ時、假令其地方人は國費なり縣費なり市費なりによつて出來たが爲め、直接懷中を傷めることなく出来たとはいへ、有用が出來ないで無用が出來たといふ、社會人としてのブローカー入りの取引上の損失は決して鮮少でないことに氣がつくであろう。幸に國縣費市費等々の支出なく或る寄附行爲によつて出來たものであつたにせよ同じ事である。是等の者はドウセ・選舉有時の際の地盤確保とかいふ如き何等かの有形的報酬を此世の中にて獲取しなければ、彼等ブローカーの商賣は、上つてしまふ譯であるからである。露國皇帝の道はその直線なるによつて專制振を發揮して居ろうがブローカー入りの道路は多く無用の屈折によつて出來上つて居る、會々それが社會の人に有用になつた場合があつたとするも結婚隣の煩帝、虚榮と遊興との爲めに起したカナルが、今では江河を通ずる南北支那間の便利となつたが如くで、斯る公企業は性質として惡である。然かも斯る事實の社會に行はるゝことが、獨り道路費の社會又は個人の損失たる以上に、他の方面に於て所謂世

道人心にほす影響の大なること、實に諸悪之によつて生ずるの概があるのである。羊の腸に似たる道と、人と車の難關に生命の安全保障すら得ることを得ない不幸な交通者は、遙かに鷄犬の悠々乎として戯れるゝに任せて人影稀れなる某々有力者の道路を眺めていふて居る。「ドウセ某々を有しない此方は何をしても駄目なのだと、彼等は已に自暴自棄に陥つて居るのである、世を睨みて居るのである。

四

道路の新法が出來て我國の道路體系が整ふたことは、邦家の爲め慶すべきことであるのはいふを待たぬ。然し法は死物である、人によつて初めて生命が生ずる。道路の技術に於て我國の技術者は歐米のそれより劣つて居るとは考へられない。然るに私共が國以下縣市道等の如何に構築せらるべきか、如何にせざるべからざるかを、當路者に教を請はんとして伺出づる時、今日何人が具體的に明確に垂示するであらう。聽くが如くんば某の縣にては、國縣道の改修

豫定線を圖示したが爲めに、土木當局は縣會議員より難詰せられたとかいふことである。國民として縣民として、國民縣民に正に進むべき道を知ることは大切なことである。假令想定に過ぎない者にせよ、専門的見識あるものが其立場より國民縣民に正に進むべき道を指示するのが何故悪いのであるか、思ふに之を難詰するものは、之を明示せらるゝによつて己等が爲にする或事を働くに支障あるが爲めなること察するに余りあるのである。實に此事たる今日の我國の状況を凝視する時肌に粟を生じ眼底濕の生ずるを禁ずる能はざる弊竇あることを知る。如何に思想の善導が高唱せられ、教化の總動員が叫ばれても國民日常生活の前に斯る惡事が公然として行はれ然かも之が法治國として又政黨政治の當然の結果なる如くに見せつけられ、強へられては悪化せざらんとしても能はざるものでないか。傳へ聞くところによれば、歐米にては都市計畫の外に地方計畫を實施して道路の外に公共的諸施設を定め、個人的利害を以て臨むプロトカーラーに容喙の隙ならしめて居るとの事である。結論的

に私が主張せんとするものは國の改修には國家機關としての審議機關を置き、縣市道に於ても各々相當な機關を設け、斯道の權威者を以て實際に有用なる道路系統と改修順序を計畫的に定め、地方的或は個人的の利害に基き左右せらるゝの弊害を抑止せんと希ふものである。然かも之によつてブローカーを排滅せしめ彼等が社會を毒するの途を防ぎ以て社會の健全なる發達に備ふることを得るを想ふ時血の躍るを覺ゆる。

更らにブローカー排斥の方法に附加すべき一事は道路法による受益者負擔の適用を輕易に大に利用せしむるに力むることと寄附金によつて爲す道路改修の手段の廢棄である。前者によつて爲さるゝが爲に道路の利益を公平に享くことを得せしめ、ブローカーの輩が己が御利益の如く吹聴して之による反對給付を要求するの余地なからしめ、後者によつて寄附の名の下に無用不急のものを猥に地方團體の豫算上に計算すべく理事者を余儀なくせしむるの途を防ぎ得るからである、道路なるものは甲の地點より乙の地

點に通して初めて効用を完ふするのである。若し關係地元の或者が寄附を肯せないが爲めに他の關係者一同は迷惑しブローカーは早速之につけ込んで、折角有用の道路を後にし無用のものに費用を轉換するの悲劇を演ずる現實は、地方にあるものゝ眼に余りにも多く見せつけられて居る。

道路法の制定發布あつて已に十年其間大正十一年の改正もあつて、從來の不統一なる道路法規の統一は成つたと雖之が適用は、舊來の道德と政治に一任せられて國民の實生活に則することが出來ないで居る。

今や法制定十週年を一紀元して更らに道路を正しく國民の實生活に協ふべく之が根本の弊を除去するに力むることはいふを待たざることゝ思ふ。依て時弊を指摘する。